

24時間営業という特性が課題に

～薬事法一部改正による登録販売者制度への見方～

「ナチュラルローソン 都立大学駅前薬局」のケース

「医薬品販売のコーナー（売場）が作れたら十分に需要は見込める。ただ、一方で登録販売者を24時間確保できるのか、それが大きな課題」と話すのは、都内で調剤薬局チェーンを展開する株式会社メネフィットの広本進煥代表取締役。同社は08年3月から、CVS形態で調剤薬局を併設する「ナチュラルローソン都立大学駅前薬局」の運営も手掛けており、今回の薬事法一部改正による医薬品販売制度の変更に対する意識も高い。

**1日平均客数1400人
処方せん枚数は約50枚**

調剤併設型CVSとしてオープンした「ナチュラルローソン都立大学駅前薬局」は03年12月に開店・開局した。東急東横線の都立大学駅徒歩1分という好立地にあり、1日平均客数も1400人と多くの生活者に利用されている。08年2月までは別会社による運営だったが、3月から同社が運営している。

同店に併設する調剤薬局は、CVS売場とつながる右手に位置する。広本代表は、「面で1日平均50枚の処方せんを応需するが、これは少しずつ増えてきていると思う」としており、「やはり、『ナチュラルローソン』と



東急東横線の都立大学駅徒歩1分という好立地にもあり、調剤併設型CVSという珍しい形態が目玉

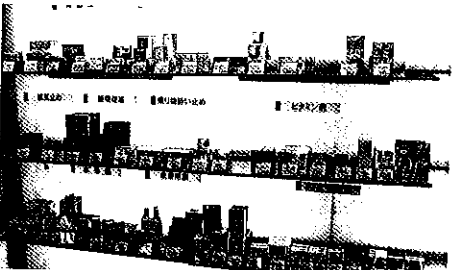
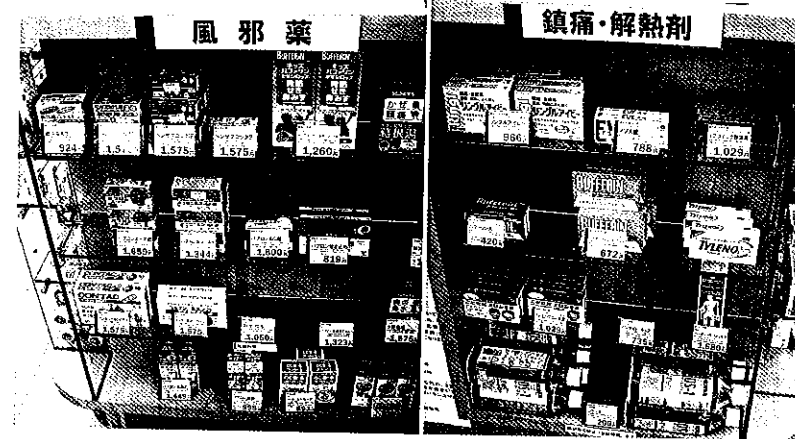
いう安心感が大きな要素にあるのではないかと分析を加える。

OTC薬に関しては、調剤薬局入り口付近に総合感冒薬や胃腸薬、目薬など必要最低限を品揃えする。ただ、OTCに対する需要は「夜間など時間によっては多少高いときもある」というが、その需要のある時間帯（20時以降）は調剤薬局も閉めており、薬剤師不在のため「販売することはできない」というジレンマもあるようだ。

CVS社員に登録販売者受験を指示 パート・アルバイトの関心も高く

ただ、同社に運営をチェンジして約1カ月足らず（取材時）とまだ日は浅く、今後、CVS売場と連動した医薬品販売構築には積極的だ。広本代表は「03年に開店・開局したもののこれまでは、CVSと調剤薬局それぞれのスタッフ間にあまりコミュニケーションがなく、ある意味独立してしまっていた。今後はこの部分を改めて顧客の信頼という面からもより相乗効果を高めていきたい」と、CVSと薬局両方の運営を手掛けるに当たって意欲を高めている。

今回の薬事法一部改正による医薬品販売制度変更はその布石ともなるもので、「その着地点については非常に高く注目している」と話す。現在、CVS売場を担当する社員2



OTC薬は必要最低限を品揃え。販売制度改正でCVS売場にコーナーを作れば「売上げも伸びるのでは」と広本代表

人に対しては登録販売者試験を受験するように指示を出しているほか、パート・アルバイトに対しても薬事法一部改正による新資格について説明を始めたという。

「こうした制度変更について、パート・アルバイトを含めたCVSスタッフの間ではそんなに認知はされていなかったが、説明をすると『そういう制度があるならぜひ受験したい』という要望が寄せられる」と広本代表。特に、フリーターとして働くスタッフの関心が高いといい、「自分の可能性を広げるためにも良い制度なのではないか」との見方を示している。

CVS業界全体に立ちはだかる壁 ～核となる登録販売者の確保

一方で、CVSなどDgS以外の業態が2・3類薬の販売を来年4月の登録販売者制度スタートから同時に開始することについては、「かなり壁は高いのでは」と見ている。その理由として、受験資格に薬局・薬店・DgSでの販売経験1年が求められる点がよく指摘されるが、広本代表は「例えその問題をクリアしたとしても、24時間営業が特徴のCVSで24時間登録販売者を確保できるのか、そうした問題も大きい」と、さらに一歩踏み込んで分析する。

確かに、広本氏が指摘する問題は業界からみても深刻かもしれない。「24時間営業が基本という特殊性を考えたとき、決まった時間帯は必ず店舗にいるという言わば“核”となる登録販売者が必要



で、これが確保できないと販売時間が曖昧になる」と、シフト作成に大きな影響を与えることを示唆する。「こうした問題からCVS業界全体としては、DgSのようにスッと入っていくことは困難でしょう」と予測し、「だからこそうちのような店舗が積極的にやっていかないと続けられない」と続ける。

さらに、「OTC薬の販売コーナーをCVSの一角に作る事ができれば、お客のニーズも引き出せると思う」と自信を示す一方で、「さらに大きな流れとしては、CVSチェーン本部でPBを供給するなど商品でDgSとの差別化を図る必要もあるのではないかと指摘する。

DgSの営業時間延長で競合激化も

今後、登録販売者の登場により営業時間を延長するDgSの増加が予測されるが、これに関して広本氏も「確かに改正薬事法施行後、営業時間は延長されると思う」としており、「そうなればさらに強力なライバル関係になる」と続ける。同店の目の前にも大手DgSの店舗が構えており、その言葉はより真実味を帯びて聞こえてくる。

特集の前文でも触れた通り、DgS以外の業態では、今回の薬事法一部改正に関して多くが「静観」の構えを見せているが、登録販売者が登場してくる平成21年以降を堺に、小売薬業の業界地図が大きく変わる可能性は非常に高い。そして、その綱引きは見えないところで始まっているのかもしれない。

ナチュラルローソン
01年7月に東京都目黒区の自由が丘に初出店して以来、現在都内を中心に100店舗以上展開。「美しく健康で快適なライフスタイルを身近にサポートする」ことをコンセプトに据えたCVSとして、自然素材を利用した食品や生活用品などを扱い、消費者の間で認知度が高まってきている。